保険請求事務講習会(医科・初級)

保険請求事務を始めたばかりの方や経験年数の浅い方を対象とした、初級保険請求事務講習会を開催します。保険診療の仕組みから、点数計算、レセプトの作成など、保険請求事務の基礎を学びます。下記要領で開催いたしますので、ご参加ください。

◆ 日　時

①2025年5月25日（日）10時～15時　※締切5/13(火)

②2025年6月29日（日）10時～15時　※締切6/17(火)

※すべての日程昼食休憩あり

◆ 会　場

①②ともに**兵庫県保険医協会５階**（JR「元町駅」東口から南へ徒歩８分）

◆プログラム

保険診療とは/窓口業務/点数の解説/診療報酬請求の実務/レセプト事例解説

◆ 来場定員 ･･･ 70人（Zoom併用）

事前申込順。定員超過の場合、１医療機関の参加人数を制限させていただく場合がございます。予めご了承ください。

※協会の会員医療機関のみのお申し込みとなります。

未入会の場合は、入会手続きの上でお申し込みください。

◆ 参加費

来場・Zoom参加いずれも１人につき7,000円　（テキスト・資料代含む）

※来場参加者で昼食弁当（お茶付）を希望の方は、別途1,000円

〈来場申し込み〉☎078-393-1840　事務局　杉本までご連絡ください。

〈ZOOM申し込み〉

下記のQRコード又はURLからお申し込みください。登録後に確認メールが届きます。

① https://x.gd/1QyZ5　5/25

② https://x.gd/N2ZES　6/29

兵庫県保険医協会

神戸支部ニュース

386号
2025年４月25日付

発行　兵庫県保険医協会神戸支部
〒650-0024　神戸市中央区海岸通1-2-31　神戸フコク生命海岸通ビル５Ｆ
兵庫県保険医協会　TEL078-393-1801　FAX078-393-1802

－保険請求事務講習会－

保険請求の基礎と診療報酬算定のポイントを学ぶ

算定の留意点を熱心に聞く参加者（左）　講師を務めた田中孝明先生（右）

協会は４月６日に保険請求事務講習会を協会会議室とウェブ配信の併用で開催。あわせて118人が参加し、保険請求と保険請求の基本的なルールや診療報酬改定後の算定の留意点などを学習した。田中孝明神戸支部長が講師を務めた。

田中先生は、協会発行『保険請求の要点　2024年度改定版』をテキストに、医療保険の基礎知識や療養担当規則の解説、診療報酬点数、カルテやレセプトについて、具体的な算定事例や注意点を交えながら説明。実際の診療内容に基づく点数・窓口負担集計とレセプト作成例を解説した。

参加者からは、「とても丁寧に算定要件が説明されわかりやすかった」「今日の資料を振り返りながら、現場で実際に触れて習得していきたいと思います」「具体的な事例での解説があり、理解しやすかったです」など好評を得た。

同講習会は５月25日、６月29日にも開催する（**4面に案内**）他、今後も定期的に行う予定。

健康と医療について語り合う会 参加者感想文

気道感染症の重症化リスクを学ぶ

神戸支部は、2月27日（木）に健康と医療について語り合う会を神戸市婦人会館で開催し、23人が参加した。これは「聴覚障害者の医療を考える会」から依頼を受け、神戸支部が講師派遣、協力しているもの須磨区・独立行政法人国立病院機構神戸医療センターの土屋貴昭先生が「高齢者が気をつけなくてはいけない冬の気道感染症ー咳、微熱、倦怠感が続くときー」をテーマに講師を務めた（前号既報）。参加者の感想を紹介する。

気道感染症の種類と予防対策を解説する土屋先生

聴覚障害者の医療を考える会（第199回いのちを考える会）で、独立行政法人国立病院機構神戸医療センター呼吸器内科の土屋貴昭先生にご講演いただきました。

テーマは「高齢者が気を付けなくてはいけない冬の気道感染症」。冬に気道感染症が増える理由、一般的なお話から始まり順に分かりやすく説明いただきました。

私は意識してマメに石鹸手洗いをしていると自負していましたが、洗い方の丁寧さが足りないことと、アルコールの擦式消毒の方がやはり除菌効果が高いとお聞きし、意識して行おうと思い直しました。丁寧にもみこみ、よく乾かすのが大事！分かりました。

また、重症化のリスク因子が様々ある中で、『65歳以上の高齢者』の項目もあり、若いころと同じように気を付けていても、高齢になれば自然にリスクが上がるという自覚を持つことも必要と感じました。

質疑応答の中で、喘鳴が自分では聞こえない聴覚障害者の受診の目安や、受診時に医師に伝わりやすいポイントなどもお答えいただき、医療関係者と聴覚障害者の相互理解が深まることも、この会の大事な面かと思いました。第200回のいのちを考える会も楽しみにしております。

【中央区・M．K】

神戸支部ニュースへの投稿を募集しています

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1805 ／ FAX 078-393-1802
e-mail　miki-o@doc-net.or.jp　担当：沖野まで

西区社会保障推進協議会　学習会

予算案から日本の医療費・社会保障費を考える

西区社会保障推進協議会は２月24日に西区文化センターで学習会「令和７年度国家予算（案）から考える日本の医療費・社会保障費」を開催。協会理事長の西山裕康先生が講師を務め、市民28人が参加した。

西山先生が医療費抑制は患者に不利益をもたらすことを参加者に説明

24年度予算の国の一般会計歳出では社会保障費は33%を占め、子育てより医療・介護費が削減のターゲットになった。西山先生は社会保障給付費は増えているが、社会保障費の増加は抑制され、高齢化率に対する社会保障の比率は国際的に比較すると少ないと紹介された。

医療費は診療報酬により決まり、そして診療報酬の改定率は政治で決まるが、2023年全国の公立病院の経常損益は2000億円になり、経常赤字の公立病院の割合は70%を占める。医療費抑制を進め、病気の治療にお金がかかる患者の最後の砦と言われる高額療養費制度の自己負担額すら引き上げようとしている自公政権の計画について、「すべての世代の被保険者の保険料負担の軽減を図る」を建前としながら、2700億円の医療費削減を狙っており、自己負担限度額が引き上げられれば、治療中断を考えている人は４割、受診回数減を考えている人は６割占めると、アンケートの結果を紹介し、受診抑制により、健康が害される恐れがあると説明。

そもそも、患者窓口負担は「受益者」負担ではなく、「受難者」負担であり、たくさんの病気を持っている人はたくさん払うというペナルティーであるべきでなく、窓口負担はゼロにすべきとアピールした。

加えて、医療の経済的効果から考えると、西区の神戸医療センターの就業者数は909人、西区役所の就業者の３倍になるように、医療・福祉の就業者数は922万人、全産業の13.6.％を占めると紹介。医療は地域経済を支える公的基盤であり、医療・社会保障の充実が、将来不安をなくし、経済を活性化すると強調するとともに、社会保障の再分配機能の役割の重要性を語った。